

8/22(土)

「女性議会(模擬議会)」開会あいさつ文

受講生代表 兼 議長

皆さんこんにちは。

本日ここに、「女性議会」が開催されるにあたり、塾生を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

その前に、このたび7月28日に発生した熊本地震および8月13日から14日にかけて発生した千葉豪雨により、亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。被害の早期回復と、皆さまの安全をお祈りいたします。

暦の上では立秋を過ぎたとはいえ、なお厳しい残暑が続いております。このような暑さの中、また、本日はお忙しい中お越しいただきました傍聴者の皆様、そして私たちの質問に真摯に向き合い、直接ご答弁をいただきます市職員の皆様に、塾生一同、心より深く感謝申し上げます。

さて、塾生の皆さん。いよいよ、この日が来ました。思い返せば令和4年、私たちは「みきウイメンズすてっぷあっぷ塾」の仲間として出会いました。男女共同参画の視点を学ぶところからスタートし、時にはメンバーの入れ替わりもありながら、歩みを進めてきました。

そして今年度は、市役所の仕事や仕組み、行政のあり方を一からじっくりと学び、地域が抱えるリアルな課題を見つめ直してきました。「私の思う課題はこれだ!」と意見をぶつけ合い、伝え方を磨き原稿を書き上げ、リハーサルを重ねてまいりました。

本日、ここにおられる市職員の皆様に、7名の塾生が、これまでの学びの集大成として質問に立ちます。

「自治会の機能低下」や「デジタル格差」、「災害時の在宅避難者支援」、「農福連携」や「スポーツを通じた地域活性化」、そして「子育て世帯の負担軽減」や「高齢者の死亡後の市役所での手続き」など、私たちが日々の生活の中で見つけてきた大切な気づきを、一生懸命形にしてきました。

今日、私たちが手にするマイクは、同じ地域で暮らす一人の市民として、あるいは一人の受講生として、大切な人たちの想いを直接、市政へと届けるためのバトンです。

今日のために積み重ねてきたこれまでの学びと、自分自身の生活者としての実感を信じて、私たちの生きた言葉で、堂々と届けていきましょう。

今日のこの女性議会が、私たち塾生にとってはもちろんのこと、本日この場に集い、私たちを見守ってくださるすべての人にとっても、共に新しい未来へ向けて、大きな一歩を踏み出すきっかけとなることを確信しています。それでは皆さん、お互いにエールを送り合いながら、この貴重な舞台を実りあるものにしていきましょう!

これをもちまして、私の開会のご挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

